

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500856		
法人名	有限会社 富士松		
事業所名	グループホーム 輪楽笑		
所在地	愛知県春日井市白山町5丁目5番地の2		
自己評価作成日	平成25年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成26年 1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JkyosvoCd=2372500856-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日常生活は「ゆっくり・楽しく・みんな」を基本としています。
 ・広い敷地の東側には畑があり、季節の野菜を利用者さんと共に収穫したり、献立を考え、調理して食卓に上っています。南側の中庭では 四季折々の花が咲き、バーベキューやミカン狩りも楽しんでいます。また 定期的な外出支援、ホーム内での行事もあり、日常に ちょっとした変化を取り込むように努めています。
 ・スタッフは 利用者各人の思いに寄り添い、一緒に泣いたり、怒ったり、笑ったりの毎日を通し、利用者との信頼関係を確立するよう努力しており、ホームの名のとおり わっはっは と笑いの絶えない明るいホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

訪問当日、門を開けて敷地に入れば、玄関横のベンチで利用者全員がワイワイガヤガヤ…。前を見ればトラクターで稲刈り中、利用者が興味深々に見とれている外気浴を兼ねての風景である。管理者と挨拶を交わすと、『今日は秋刀魚の日です』と、ホームあげての秋刀魚祭りの準備中であった。職員のアイデアで、『秋刀魚を焼くなら炭火で』とバーベキュー風に決まり、評価中に秋刀魚の臭いが漂ってきた。利用者も交互に焼け具合を見に行き、満足気である。焼きあがり待てずにテーブルで催促する利用者、ベテラン職員の手配で30センチを超える脂の乗った秋刀魚・大きなイカ・海老と盛りだくさんの中での賑やかな食事風景であり、食事が終わると皆疲れたのか、ソファの指定席で昼寝が始まった。ホームでは、『ゆっくり・楽しく・皆で』の方針が実践されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差したホームを目指し、日々の生活を ごく普通に送ることを基本とし、ご近所との繋がりを大事にできるよう支援している。	理念を基に、『輪楽笑を笑顔でいっぱいにします』と、ホームの目標を掲げている。職員はホーム目標を展開し、職員個々の目標を宣言し、玄関の職員紹介写真と共に掲示している。	玄関の職員紹介掲示(写真・目標)が素通りし易い場所にあり、気付かない来訪者も見えるので、リビングも含めた必ず目につくように工夫される事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回に開かれる地域の老人会への参加や夏祭り、清掃活動等に参加している。またホームでの花火大会に ご近所の方も一緒に参加して頂いた。	地域には新しい住民が増えており、通りがかりの親子や学校帰りの子供達には積極的に声かけ、話しかけをしている。町内の行事にも積極的に参加し、ホーム行事の案内は回覧板を通じて行なっている。	利用者は多くの地域行事に参加している。今後は地域の方々にホームに足を運んでいただけるよう、イベント等の開催情報を発信して行く事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの存在を より知って頂けるよう、散歩や外気浴時などに積極的に挨拶を交わし、気軽にホームに来訪して頂けるように心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度 定期的に開かれており、毎回 地域の役員の方、利用者ご家族様、市役所担当者の方々の意見を参考にし、サービス向上に努めている。	同法人のグループホームと合同で、市職員・町内会長・地区社協会長・老人会長・地域包括支援センター・家族代表・職員のメンバー構成で年6回開いている。緊急連絡網の話題等、積極的な意見交換がある。	参加メンバーとして知見者(他のグループホームの管理者等)の参加が望まれる。参加者にとっても、他ホームでの取り組みや情報は参考になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上不明な点は その都度相談し、万が一事故発生時には早急に報告することで一層の協力関係を深めらるよう留意している。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員が参加しており、行政はホームをよく理解している。日常的にわからない事や問題点は地域包括支援センターに相談し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフは禁止の対象となる具体的な行為を理解し 利用者の行動を制限することなく、また 言葉による拘束を行わないことを原則として見守り・声掛け支援をしている。	身体拘束排除の宣言書を掲示して、職員は言葉の拘束を含め身体拘束の内容を周知している。防犯上、夜間のみ施錠しているが、寄り添いながら見守りを行い、安全と自由を両立させている。訪問当日も、利用者が外に出て向かいの稲刈りを眺めていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について要点をまとめたものをスタッフに配布している。また 事務所内の目に触れるところに掲示してあり意識を高め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会議の場などで、学習の機会を持ち、個々の必要に応じて支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者・家族と面談を行い契約内容を説明し理解・納得を図っている。入居時には契約書、重要事項説明書にて最終的に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時などに ケア記録を基に利用者の近況、思い、等を伝え対応している。	家族は全員市内在住で、料金は全て現金払いの為来訪頻度も多い。職員は面会時に日々の状況を説明し、意見・要望を聞き対応している。利用者の要望は、日常生活の言葉やしぐさから把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの日々のケアの中から 常に気づきをくみとるようにして、ホームの運営に反映している。	月1回のスタッフ会議のほか、運営やケアについて日頃から話し合っており、季節行事は職員の提案で決めている。『さんま祭りで焼くなら炭火で』、『時間帯によるスタッフ体制』等も職員が提案したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日に1度ホームを訪れ、職員がやりがいをもち働ける職場であるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等を受講できる機会をt畝に確保し、会議で研修報告を行い、内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修やブロック会議を通じて 交流、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居にて 利用者の意向や思いを聞き取り、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から体験入居までの間に最大限の時間を取りホームに求めていることなどを聞き、話し合い、家族・本人の希望に沿った支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設利用も含め情報を提供し、「その時」の最善の支援と共に思いを聞き、不安にならないよう配慮に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフの関係というより 家族の一員として何でも話せ、一緒に泣いたり、笑ったり、怒ったり 褒め合ったりという日常を繰り返し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子や、細かな変化等も、家族に手紙や電話、来所時の対応時に伝えるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの付近をドライブしたり、友人との交流が円滑にいくよう 支援している。	70年来の幼馴染みと外食に出かけたり、盆踊りで旧知の人に逢い『懐かしいネ』と話し合ったりと、馴染みの関係継続がある。『住んでいた所に行きたい』との声でドライブに行き、『病院がまだあった』と懐かしかった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の交流状況や対人感情などを把握し、利用者同士が 良好なコミュニケーションを取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の環境にできるだけ早く馴染むように今までの経過を書面・電話等で説明し要望があれば訪問する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で スタッフは利用者の話に耳を傾け、行動や表情から気持ちを受け止め支援している。	職員は利用者と家族同様に付き合い、寄り添いの中で思いを聴き取っている。『たまにはしゃんとした服を着たい』との言葉に、盆踊り際にはゆかたの柄選びから行い、しゃんとした『ゆかた姿』を叶えた事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に ご家族から聞き取りを行い、できるだけ多くの情報収集ができるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者各人の今の状況をスタッフは常に把握し、利用者が 今 必要としていることに着目したケアをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状を正しく把握するため 全スタッフにモニタリングをしてもらい、課題を抽出し、介護計画の作成を行っている。	4ヶ月に1回全職員でモニタリングをし、介護計画の見直しを行っている。家族の面会時に意見を聞き取り、利用者の意向と併せて計画に反映し、『着物が着たい』、『化粧がしたい』との思いを叶えた事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子については小さなことでも 常に申し送り、記録しスタッフ全員で情報を共有することを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所はグループホームのみだが、急変時にはかかりつけの医師に連絡、指導を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアグループが定期的に訪れてくれたり、地区主催の元気になる会にも毎月参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期健診を月1回行っている。また往診に来てもらう場合もあり、適切な医療を受けられるよう関係を密にしている。皮膚科医・歯科医の定期往診も受けられるよう支援している。	糖尿病で継続して長期間かかりつけ医に通っている利用者を除き、ホーム協力医(定期検診・随時往診)で受診し、職員が付き添っている。総合病院等の専門医の受診は、家族が通院付き添いを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員による 健康管理・医療面での 相談、助言、対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員と話し合い、情報提供を受け、早期退院を目指している。また 内科、皮膚科、歯科医師の往診等で関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医との慎重な話し合いで、ホームのできることを十分説明し、ホームスタッフで最大限できることを共有しうけいれる。	管理者は医療行為がなく、食事が経口摂取できるかぎりホームで対応する考えである。必要に応じて家族や協力医と、ホームの出来る事や出来ない事を話し合い、対応を決めていく方針である。	終末期のあり方については、前向きな職員・消極的な職員もいると考えられる。全職員に管理者の思いを伝え、意志統一の為にホーム内の研修を行い、その時に備える事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは救急法を受講している。突発的な事故などに備え、定例会議の場等で 対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に市消防課の指導の下 消防訓練を スタッフ・利用者全員参加で行っている。また、ホーム独自でも1の付く日は避難訓練の日とし、スムーズに避難できるよう訓練している。	1のつく日を避難訓練の日とし、鳴子を鳴らして利用者を誘導し、習慣付けている。通報装置は消防の他、町内会長にも直結している。消防訓練では、地域の方々が警報で驚かない様に回覧板で事前連絡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを常に念頭に置き、各人に合わせた言葉かけ、対応をしている。	日頃から人生の先輩である事、人格を尊重する事等を周知しながら、言葉遣いに気を付け、意見を押し付けないよう心がけている。個人的な会話は居室で行い、入浴・排泄時の羞恥心にも気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者各人の思いや希望がどこにあるか 日常の何気ない会話などから汲み取り、把握し、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各人のペース、個性、を尊重し、特技、適正などを考慮して そのひとらしく 1日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身支度、整容の声掛けで身だしなみに気を配れるようにし、定期的に美容院に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑から季節の野菜をスタッフ、利用者で収穫し、あれこれ献立を考えて調理し食卓に上ることを楽しみにしている。	個々の『力量』に合わせ、調理準備(ひげ取り、刻み、ころも付)、配膳・下膳まで多くの場面で活躍している。訪問当日のさんま祭りは、庭で炭火をおこし、秋刀魚や海鮮物を焼いて食する楽しいイベント風景となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表を基に毎日チェックし、成人病に注意している。また 常に水分補給ができるように居間にお茶を用意している。定時にダカラで水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い、特に見守りの必要な利用者には、終了まで側に付き、声掛けで正しいケアが出来るようにしている。また定期的に歯科受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の体調を見守りながら 排泄の様子やパターン等を特に注意している。	排泄パターンを把握して定時にトイレ誘導する等、タイミング良い声かけで、トイレでの排泄を大切に、「おむつ・パッド」等を安易に使用しない取り組みをしている。入居後に布パンツに改善した事例も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の体操を取り入れたり、繊維質の多い食事の提供を心掛けている。また 利用者個々の状況に応じて 水分補給を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者に合わせて 時間を調整し、常に清潔を保つようにしている。また 入浴剤や石鹸は保湿力、低刺激等に配慮している。	2日に1回の入浴を基本にしている。冬場は毎回入浴剤を使用し、お風呂上りにはボディクリームを塗布して乾燥しないようケアしている。ゆず湯や菖蒲湯など、季節を楽しんで入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調により、何時でもゆっくり休息できる環境にしている。巡回時には室温、寝具等の調整を行い、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームの存在を より知って頂けるよう、散歩や外気浴時などに積極的に挨拶を交わし、気軽にホームに来訪して頂けるように心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の趣味、嗜好、特技等を活かした レクや制作、作業等 各人に合った物を探し、楽しく取り組めるよう 支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に全員での外出支援を行っている。また、利用者個々の希望に沿うよう、少人数グループでの目的別外出支援も試みている。日々の散歩も日課となっている。	日常的にベンチでの外気浴や近くの喫茶店に出かけ、天気が良ければ遠出をしている。利用者が集団で活動することが多く、自力では歩けない人や出不精の人等も、皆に引っ張られて行動している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買い物支援を行っている。おこずかいを持参し、好みの物を自分でじっくりと選んでもらい、レジでの支払いまで見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。暑中見舞い、年賀状等 大切な方へ出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は広く、明るい光が差し込む居心地の良い空間となっている。壁面には利用者の作品や写真が掲示され、各々 思い出しながら おしゃべりに花を咲かせたりしている。ベランダや中庭には季節の花々が咲き、皆の目を楽しませてくれている。	庭側は全面ガラスで、日当たりの良いリビングは広々している。テレビの前のソファには利用者個々の名前が貼られ、シアターのVIP指定席風の雰囲気である。中庭にはパラソル・テーブルが置かれ、レンガを積んでバーベキューができる空間が造られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋内では 居間・食堂の共用スペースを持ち、其々に利用者が過ごしやすい席の配置に気を配っている。屋外ではベランダにベンチを置き、外気浴などができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に本人、家族と相談し、使い慣れた馴染みの物を配したり、本人が安心して暮らしていけるように工夫している。	利用者個々が慣れ親しんだ家財を持ち込み、思い思いの居室作りをしている。手芸が趣味の利用者は自分の作品で部屋を飾ったり、読書を居室で楽しんだり、自分の時間を楽しむスペースになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、居間、食道、廊下等の共用スペースは広く、歩行器歩行もゆったりと行える。各所に手すりも設置され、できるだけ自立した生活が安全に出来るよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	地域に根差したホームを目指し、これまで以上に地域との交流を深めていきたい。	地域行事への参加だけでなく、地域の方にホームへ足をはこんで頂けるよう、ホームを認知して頂けるような働きかけをしていきたい。	ホームの存在をより多くの地域住民の方にも知ってもらい、気軽に声をかけあったり、立ち寄って頂けるような環境づくりを整え、ホーム内のイベント情報等を発信していきたい。	12ヶ月
2	2	終末期のありかたについて、もう一步深めた話し合いを行い、全職員の意思統一を図っていきたい。	重度化していく利用者様に対して、このホームでできること、できないことをしっかりと話し合い、自分たちができる最大限を求めている。	ホーム内での研修や外部研修へのスタッフ参加を積極的に行い、スタッフ個々への終末期に対する考えを再考する機会を多く設けていきたい。	12ヶ月
3	3	スタッフ紹介の掲示板の場所が目立たない場所にある。	来所された方が、すぐ気が付くような掲示の仕方を試みる。	玄関をスタッフ、利用者の紹介ボードを並べて掲示し、来所者の目を引くような飾り付けを行った。	1ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。